

松の落葉

全

ル 4
4357



門
號
卷
凡
4357

飽州序
飽州山水。載于名勝志者。甚夥矣。
而嚴島之名。獨踞立於海內也。山

縣者。飽之邊疆。西接石州。山嶽列
峙。林木蒼鬱。蔽日虧天。含霧吐雲。
豺狼所伏。鷲鳥集矣。外降之民。襍
居於其間。風俗淳朴。厥產良哉。蓋

早稻田大學圖書館
昭和31.6.25
藏書



山有如三峨者。水有如三峽者。與蜀中地理祖相肖。惜乎自古不出文人。又無文人之遊其地者。是故。峯窈呈竒。奔流爭美。半輪明月。三聲清猿。不入斯文者。千有餘載。顯晦有時。山水亦有之哉。縣豪姓。者。每風景。携酒周覽。歷觀。惜其有

山水之竒。而無咏歌之文。遂撰縣中山水五十區。與諸文人同賦。以丹矐其山。以錦繡其水。於是乎西嶽之英。東峽之靈。爭誦競賀。若就雪耻然。夫蜀之邊僻。文化一弘。有司馬相如。張孟陽之輩出焉。山縣亦庶幾乎。地文而後人文。以能入

物をばらばらとわかれしとて
諸人へえきありしとて
事はふまふとてし
いつとて若の物とてし
人か—とてそれとて
人か—とてそれとて
高—とてありしとて

系と書を述られ
松の
葉と名に
さ

明和五戊子孟秋

松葉軒主人書

辯天橋

覺音

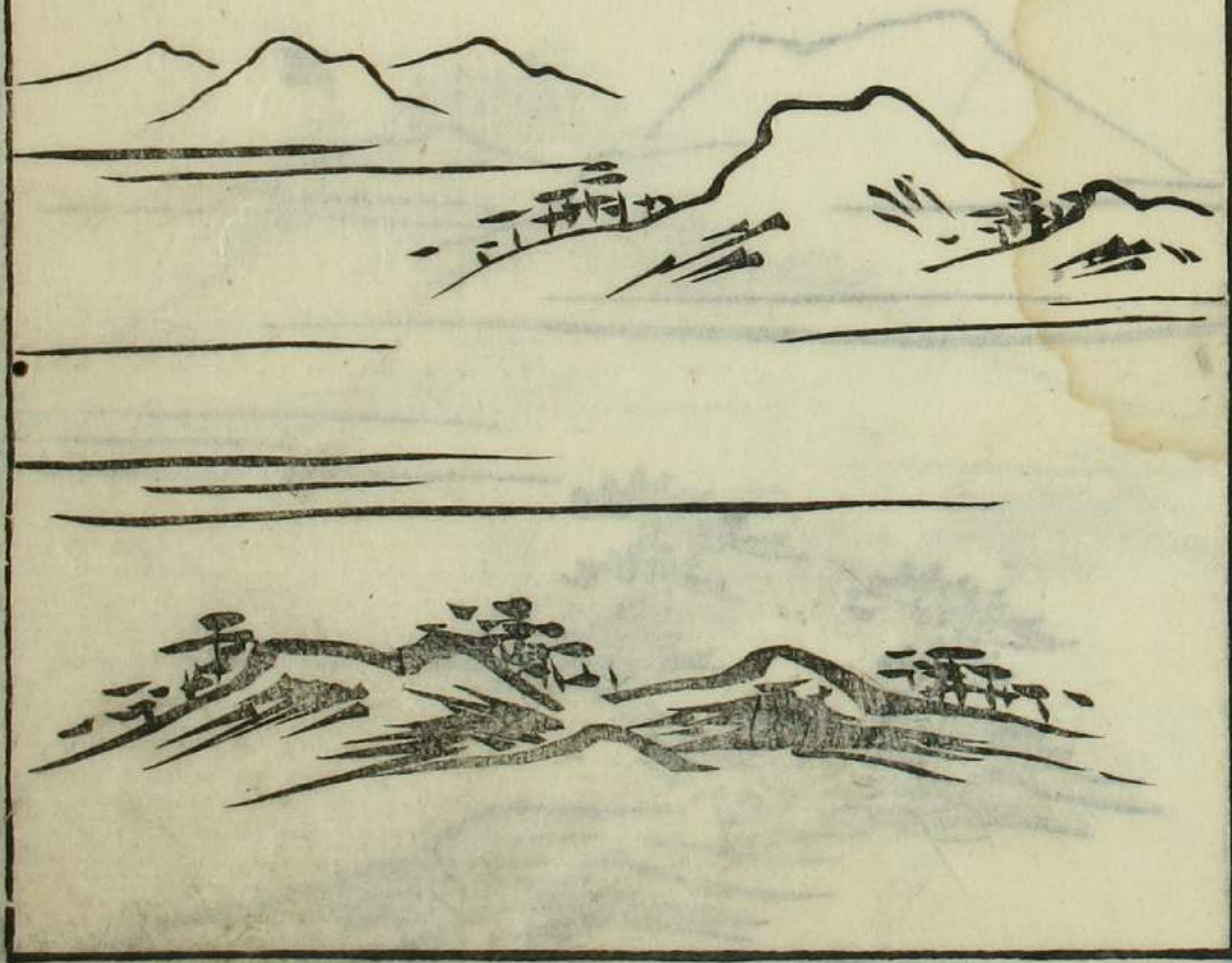
欲問天祠處
天祠成古丘
唯看橋下水
日日向東流



十方頂

寶雲

東天仙嶽雪
西海馬關潮
山頂不知頂
杳然坐九霄



塚原

玄道

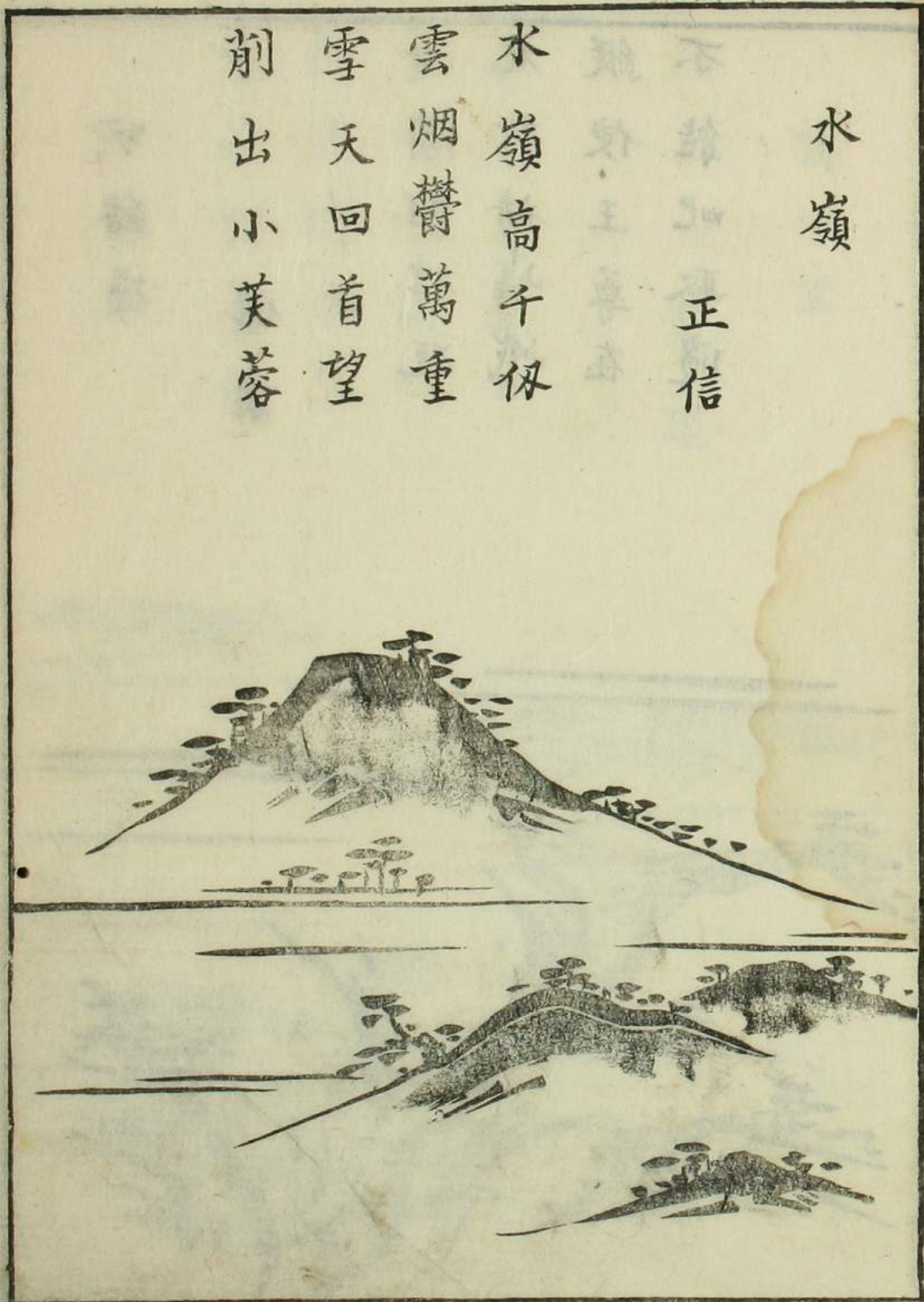
出村何所見
日夕草凄々
古墓無人弔
歸鳥繞樹啼



水嶺

正信

水嶺高千仞
雲烟鬱萬重
雪天回首望
削出小芙蓉



中鞍嶺

順象

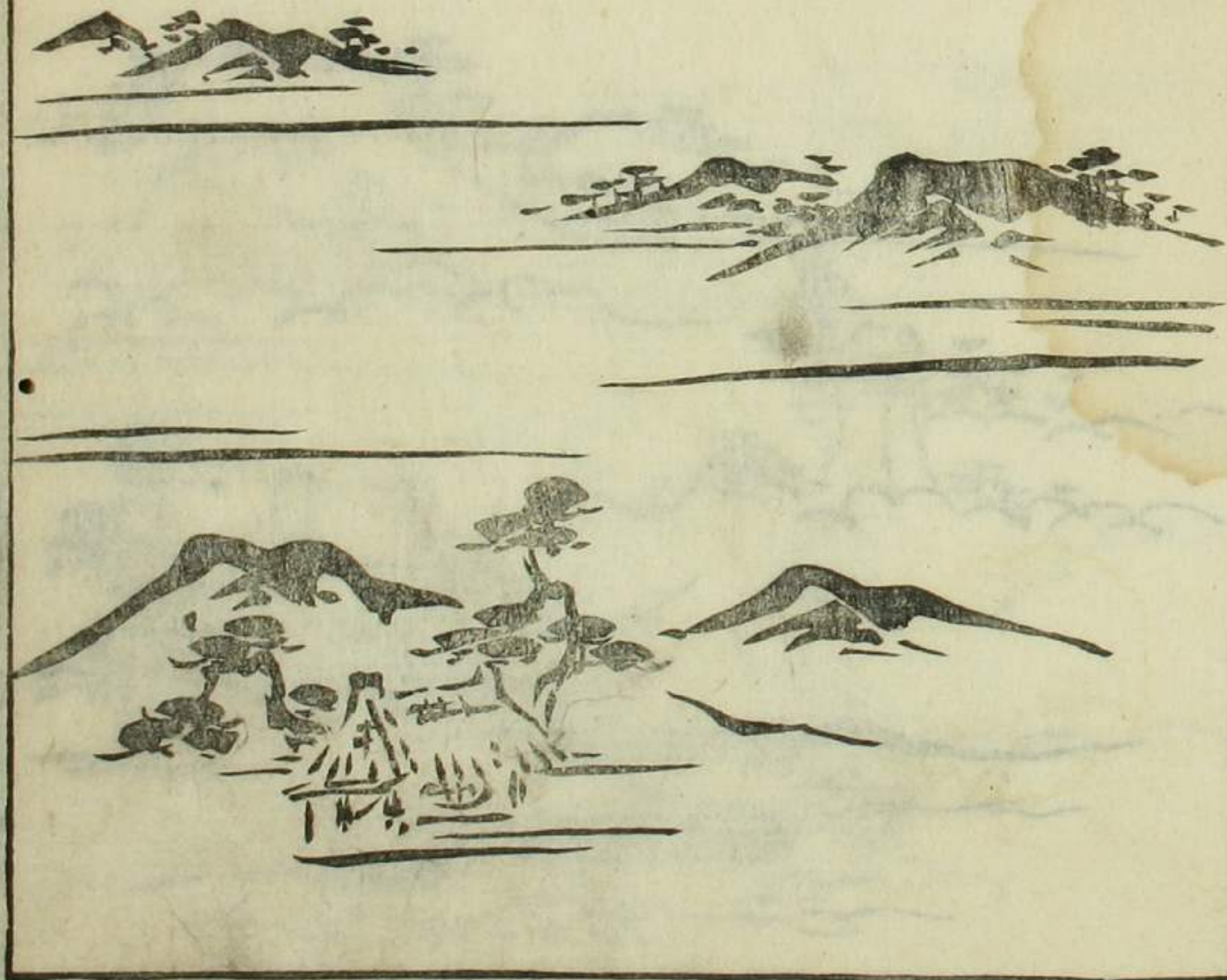
山溪何砒斫
九折倚嵯峨
縱使王尊在
不能叱馭適



橋中里

敬道

茅屋支風日
二叟相對眠
若非避秦客
應是圍碁仙



香草里

通景

殷勤香草里
蘭菊滿秋蕪
別有林泉美
乾坤入一壺



加肆

正義

旭日照千門
翠烟散似雲
市頭何絡繹
人事春來繁



觀堂

通命

津頭孤閣景光清

春水悠悠烟霧生

一自賴公留錫杖

至今此地鎮佳名

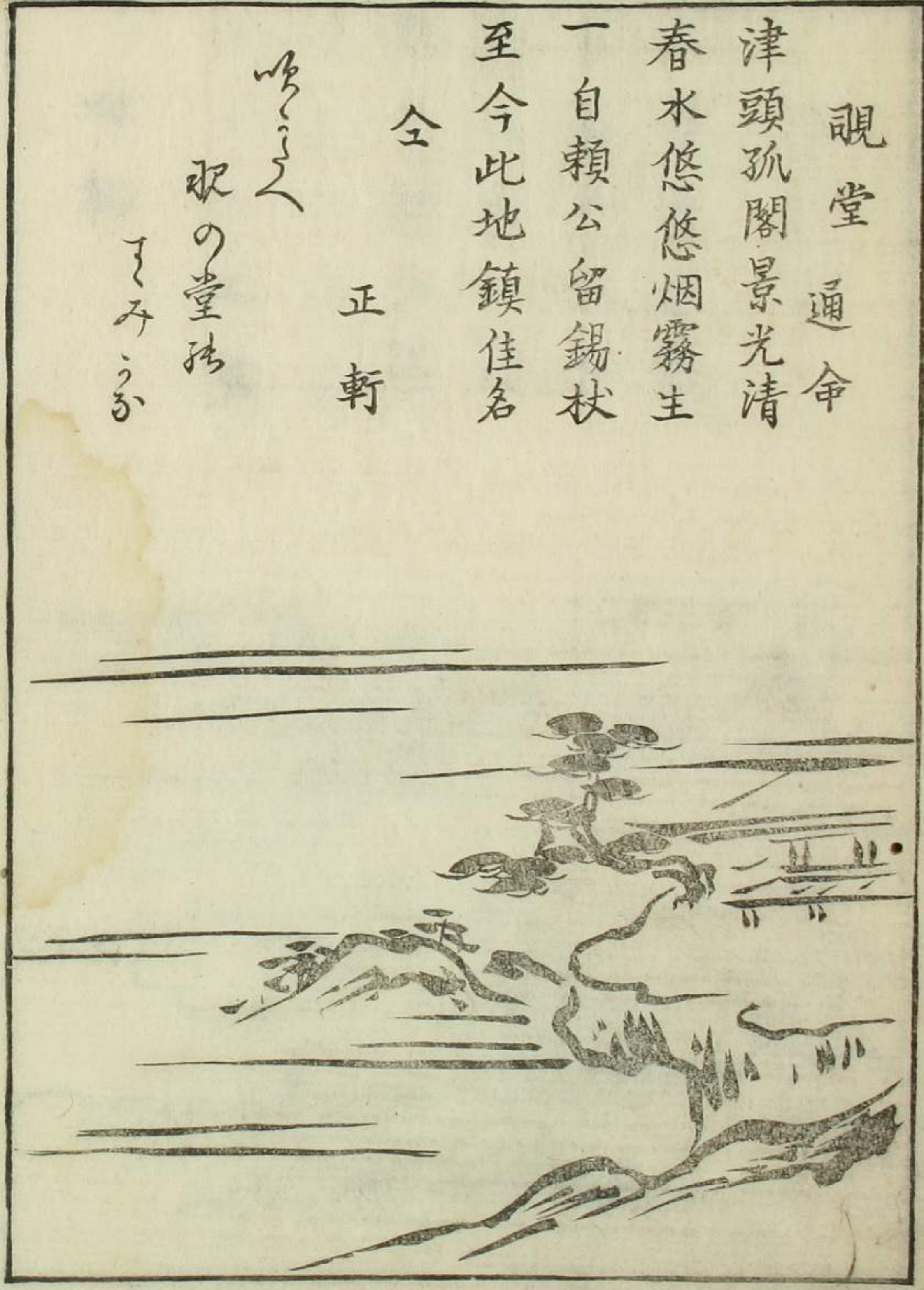
全

正軒

吟

祝の堂

了み



雨杉山

正任

卓犖杉標侵月輪

偃枝捲雨絕風塵

只今惟有盤根在

佳氣氤氳望裏新

全

春律

杉

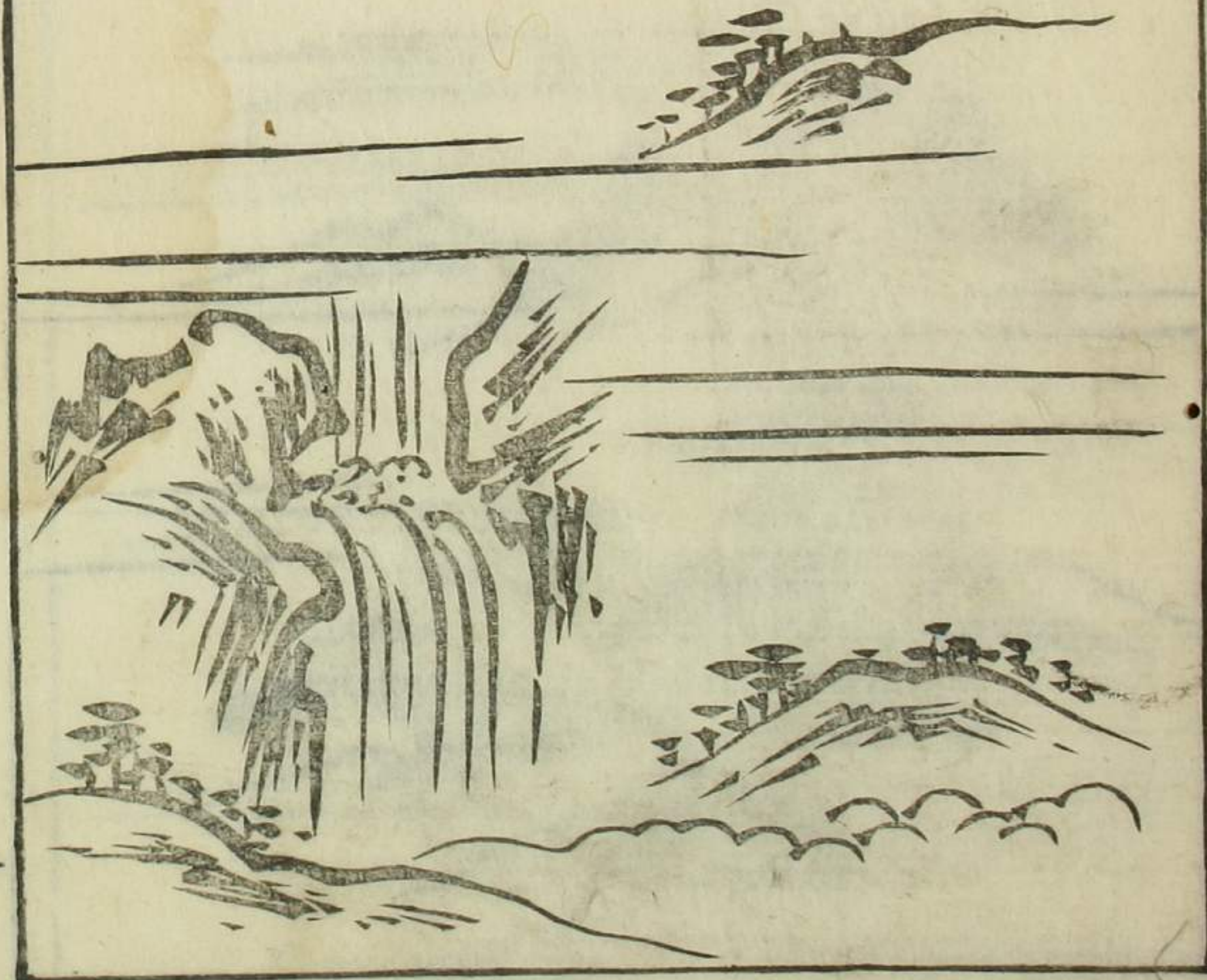
多
玉
お
れ
ん



龍口

善應

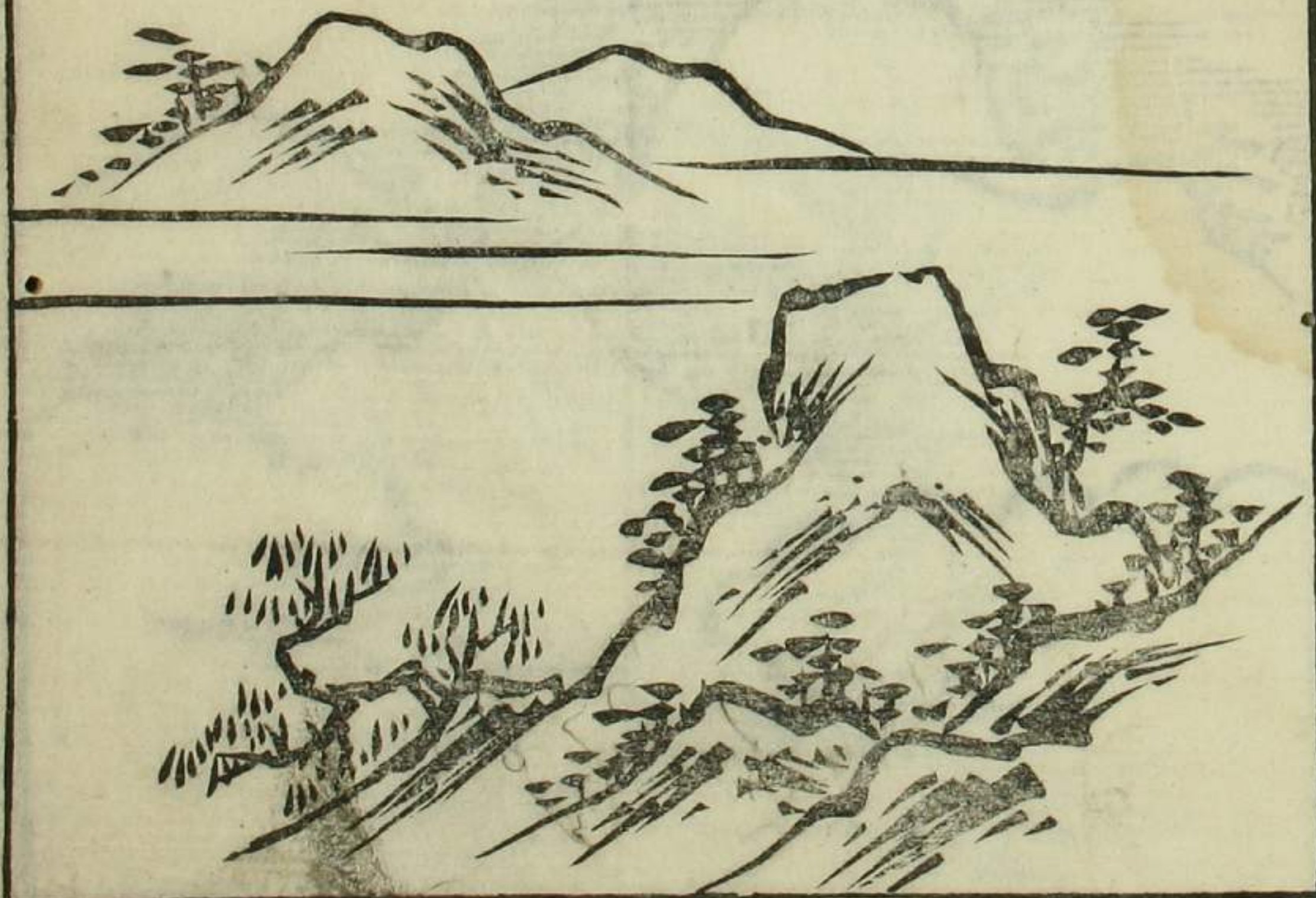
巖穴煙雲暗
激流作雨聲
自有神龍勢
綠鱗似削成



石堂山

義詮

黃鳥幽林轉
白雲處處斜
中峯看一路
疑近隱倫家



高城山

慈敬

高城山上秀高峰

無盡東天海氣重

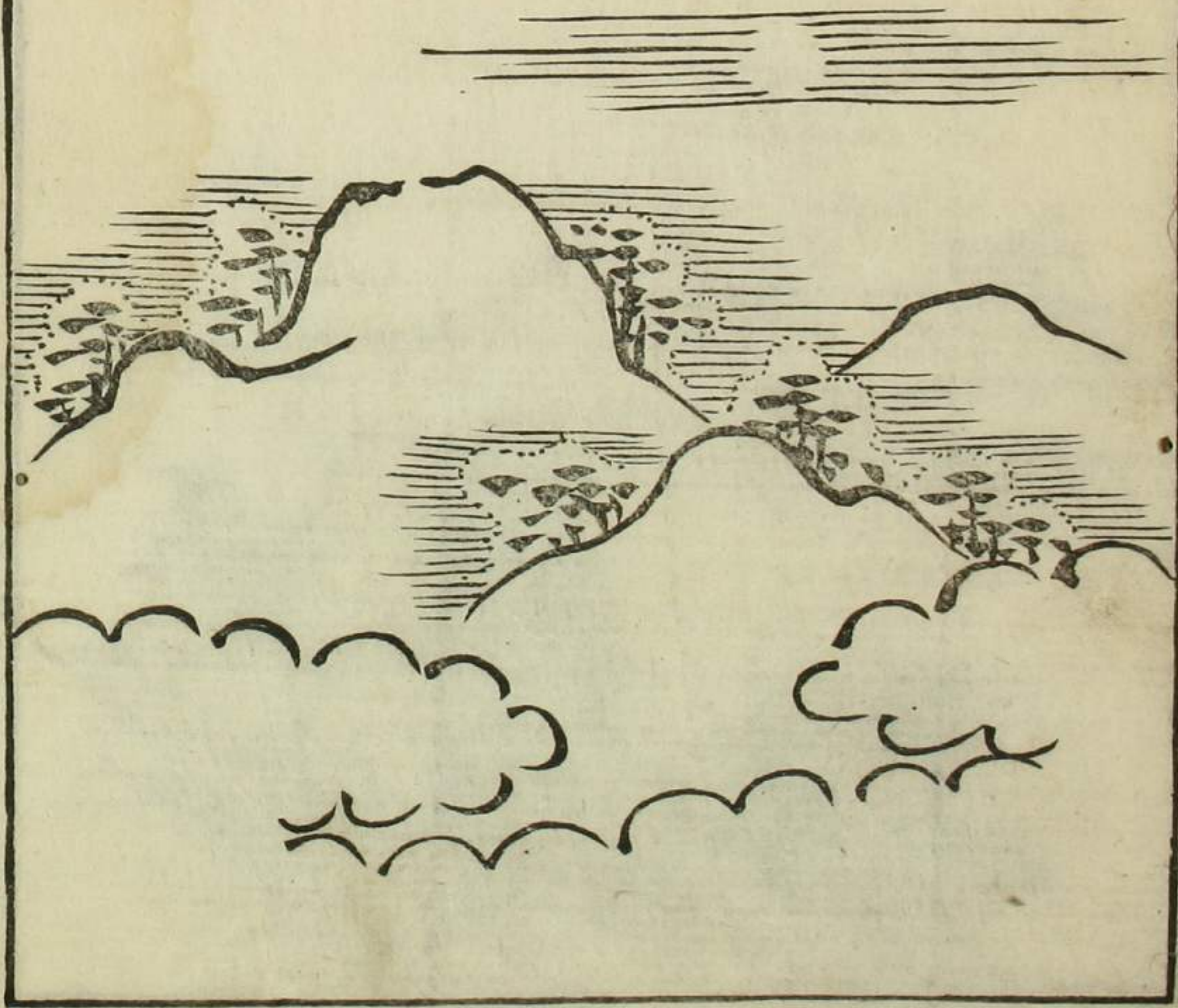
落日蒼茫霞彩外

皓皓殘雪似芙蓉

全

覚條

はしあふ人のけふの
りてて浮きかき
る峰乃峯



十

鷹峠

公健

この山

あつと

梅の

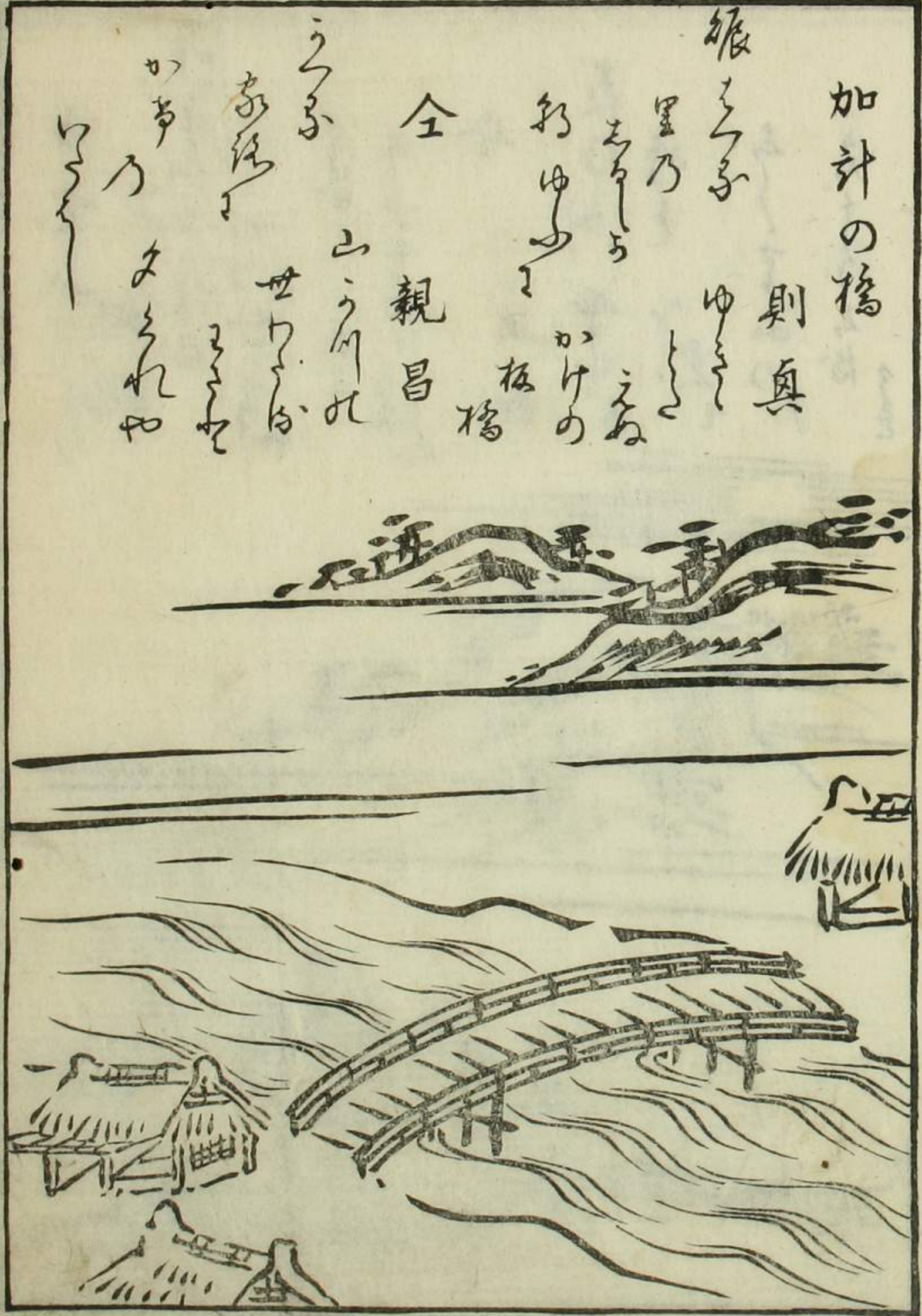
松や

あふけけ

あふけけ

あふ







東轉の渡

周房

東のりりり

まけとむ

とらり

まけとむ

全

小宇

山川の

まけとむ

まけとむ

まけとむ

まけとむ

まけとむ



大田川

正良

この里れ名

大田の川

いく世と

流

全

政寿

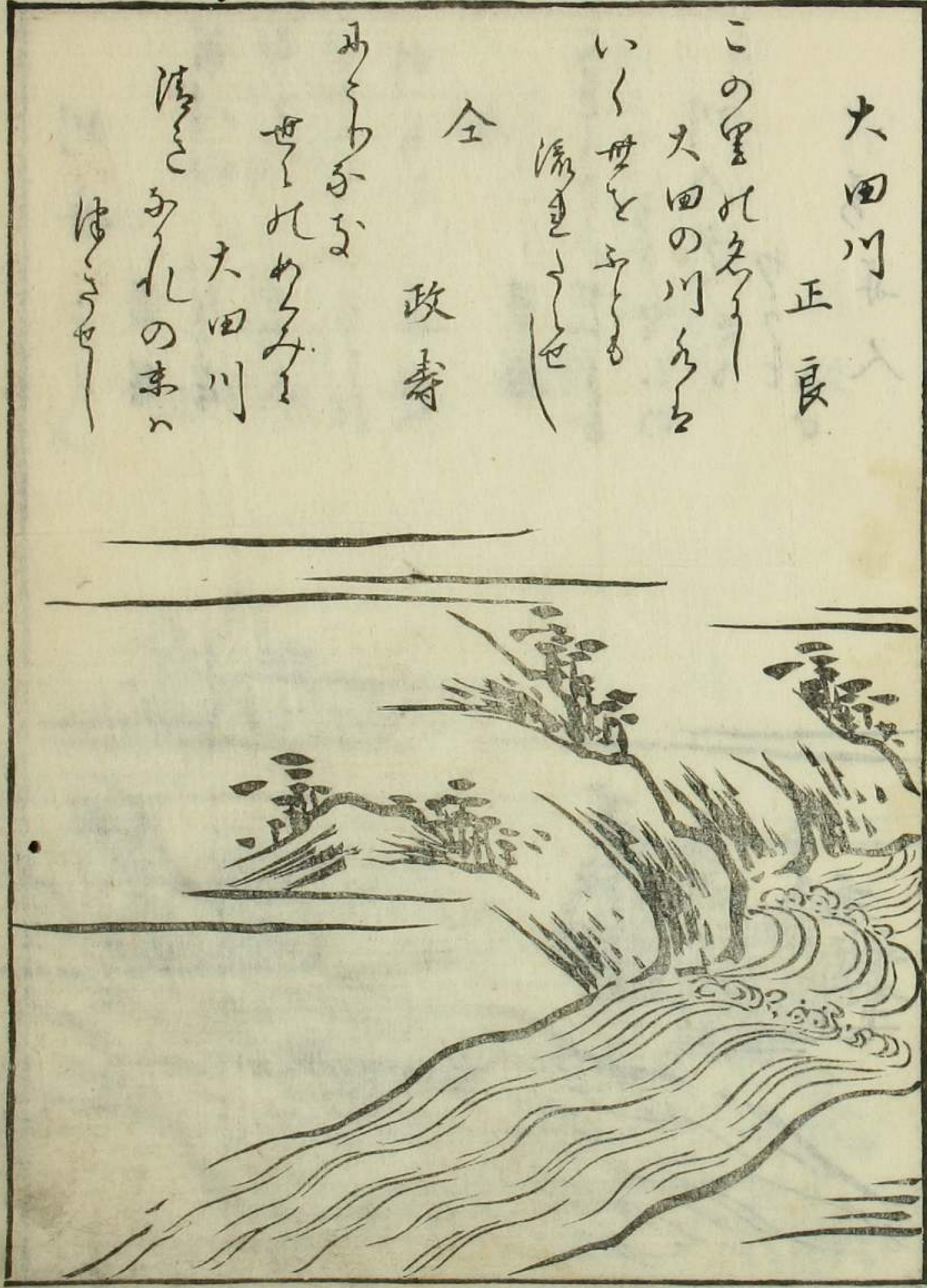
あま

せ

大田川

流

は



川舟

員昌

谷川の

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

全

昌雄

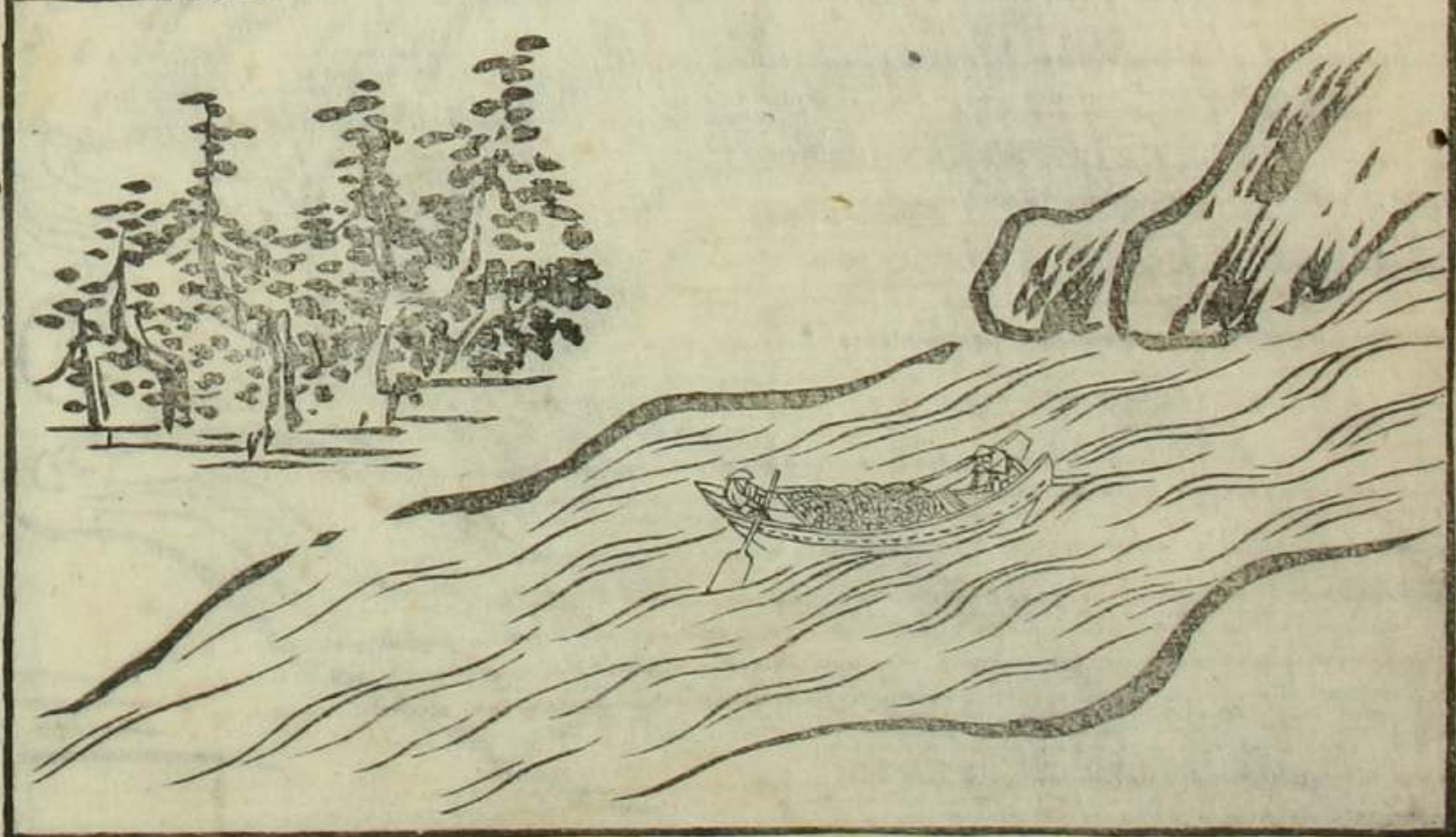
こゝろもささぐさわらふ

こゝろもささぐさわらふ

川乃ちりも

わづらひ

あはれ



笈

則改

なほりふれども

なほりふれども

山川ささぐさ

あはれ

全

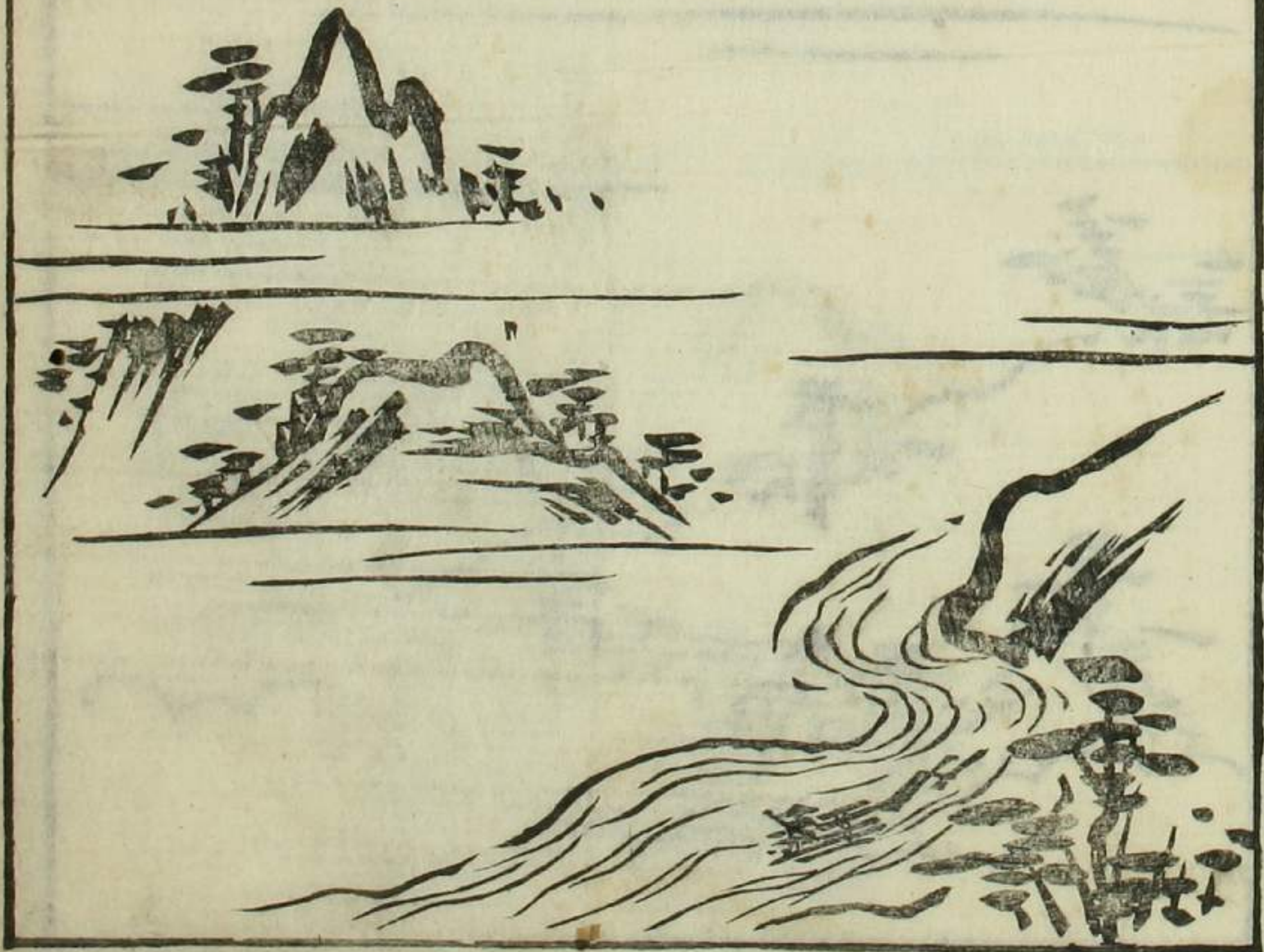
天雨

くやせ川ささぐさ

あはれ

いさよも流る袖

あはれ



物相

相堅

明わらう

しつり

舞火のうき

まのねん

全 亮香

くさねとまら

えんやいつり物相

それとん

わらふん



三段龍頭

羌盤

いふあしそ

あそき

おらうる

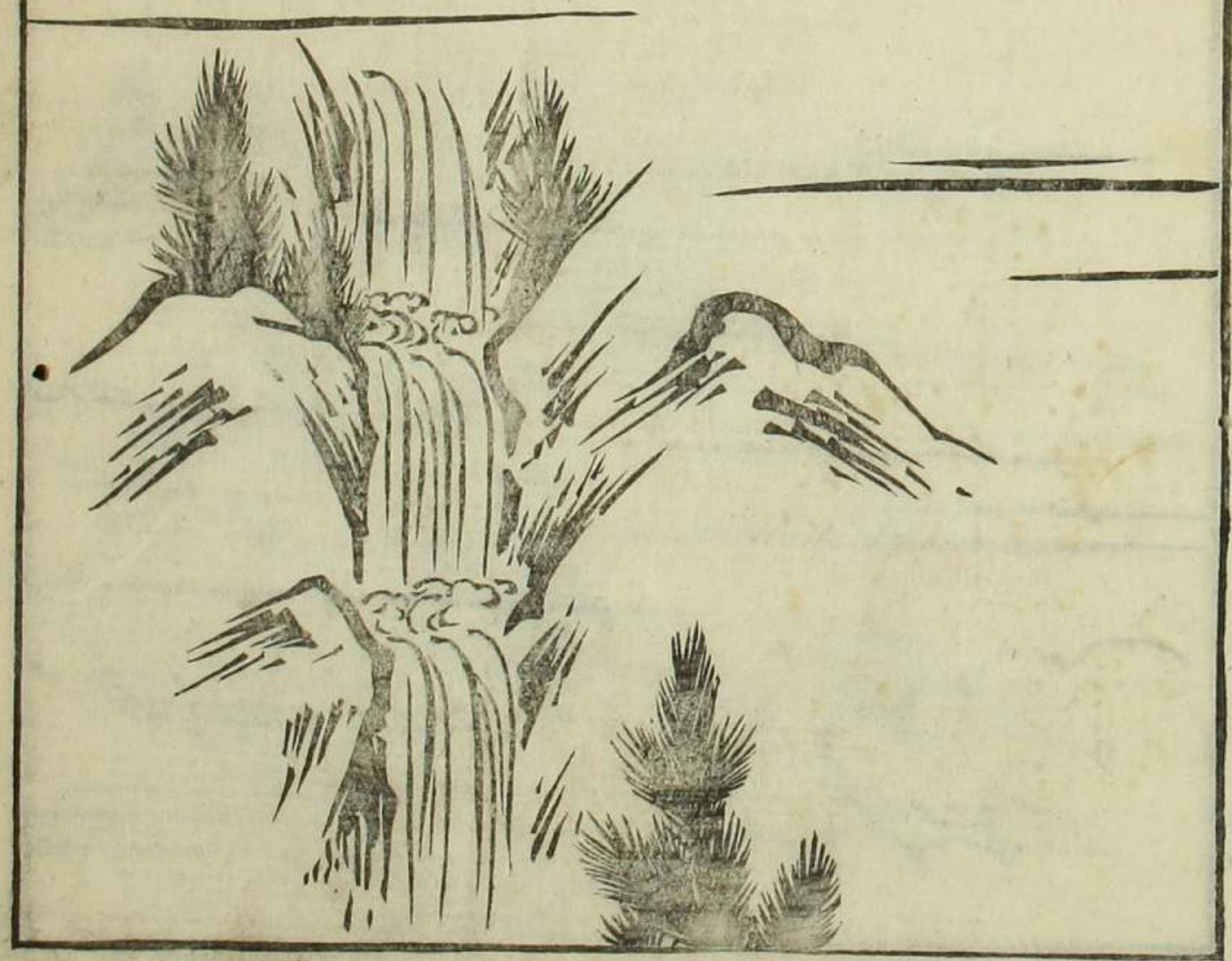
いとねん

全 善胤

あうねん

新のうら

うら



願福寺躰躑

正敬

とほあやれ

はくそ

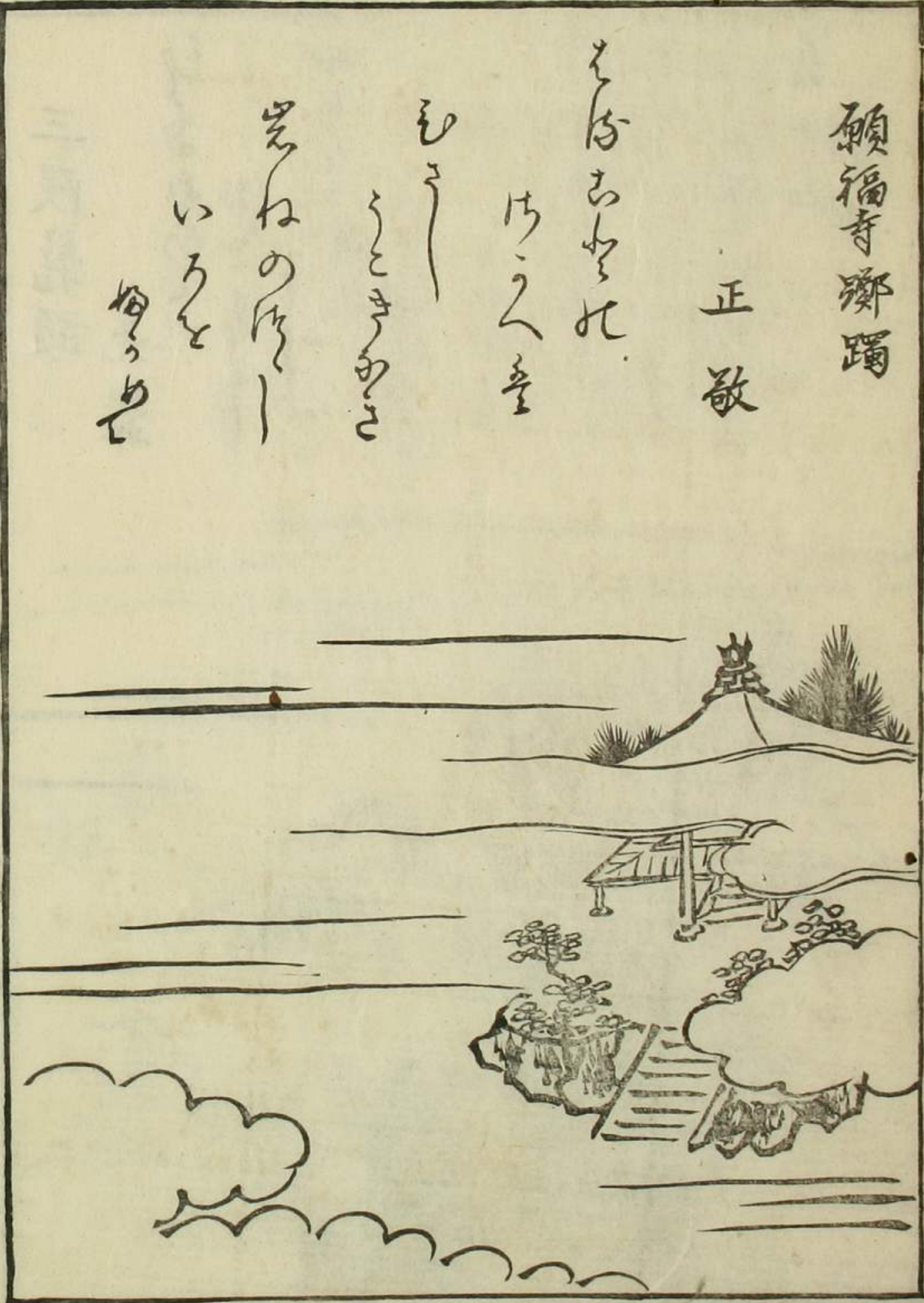
むし

くさきあさ

あねのけし

いろを

ゆらめ



とほあやれ

政義

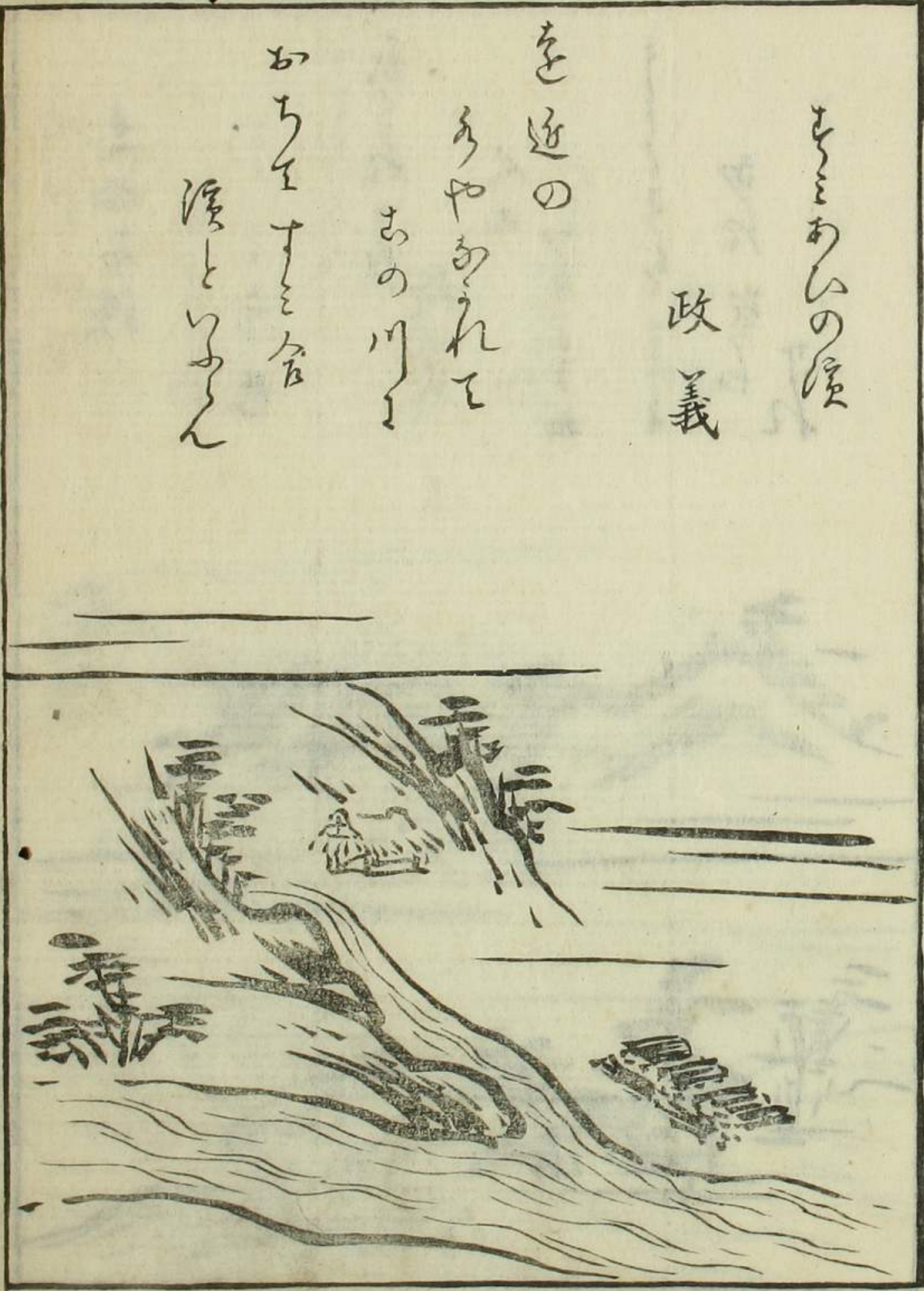
を道

あやめ

あのかみ

おろす

はくそ



史跡新編

久邑

長久保

の

人の

ついで

ついで

ついで

ついで



とらのむね

知徳

ついで

ついで

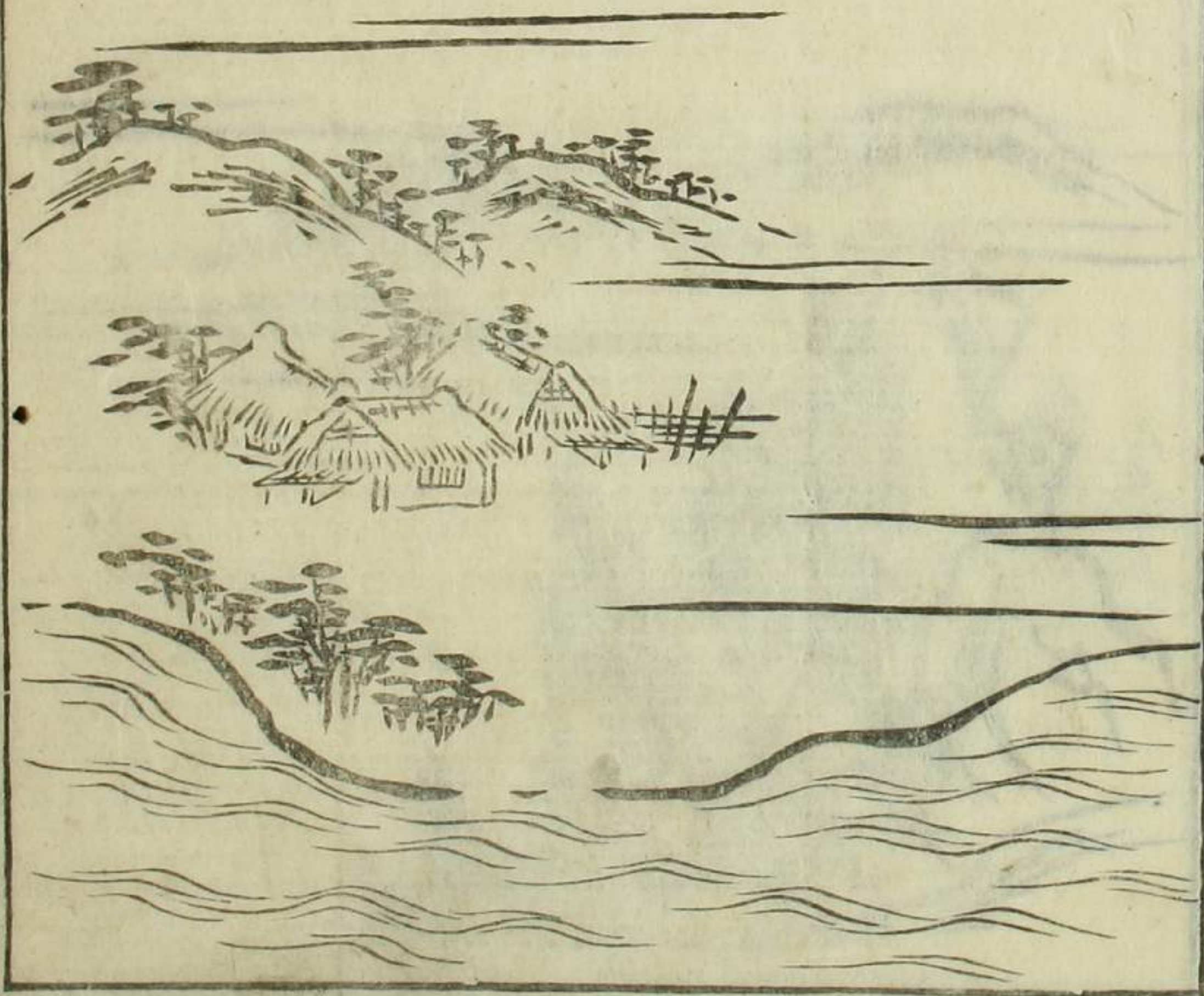
ついで

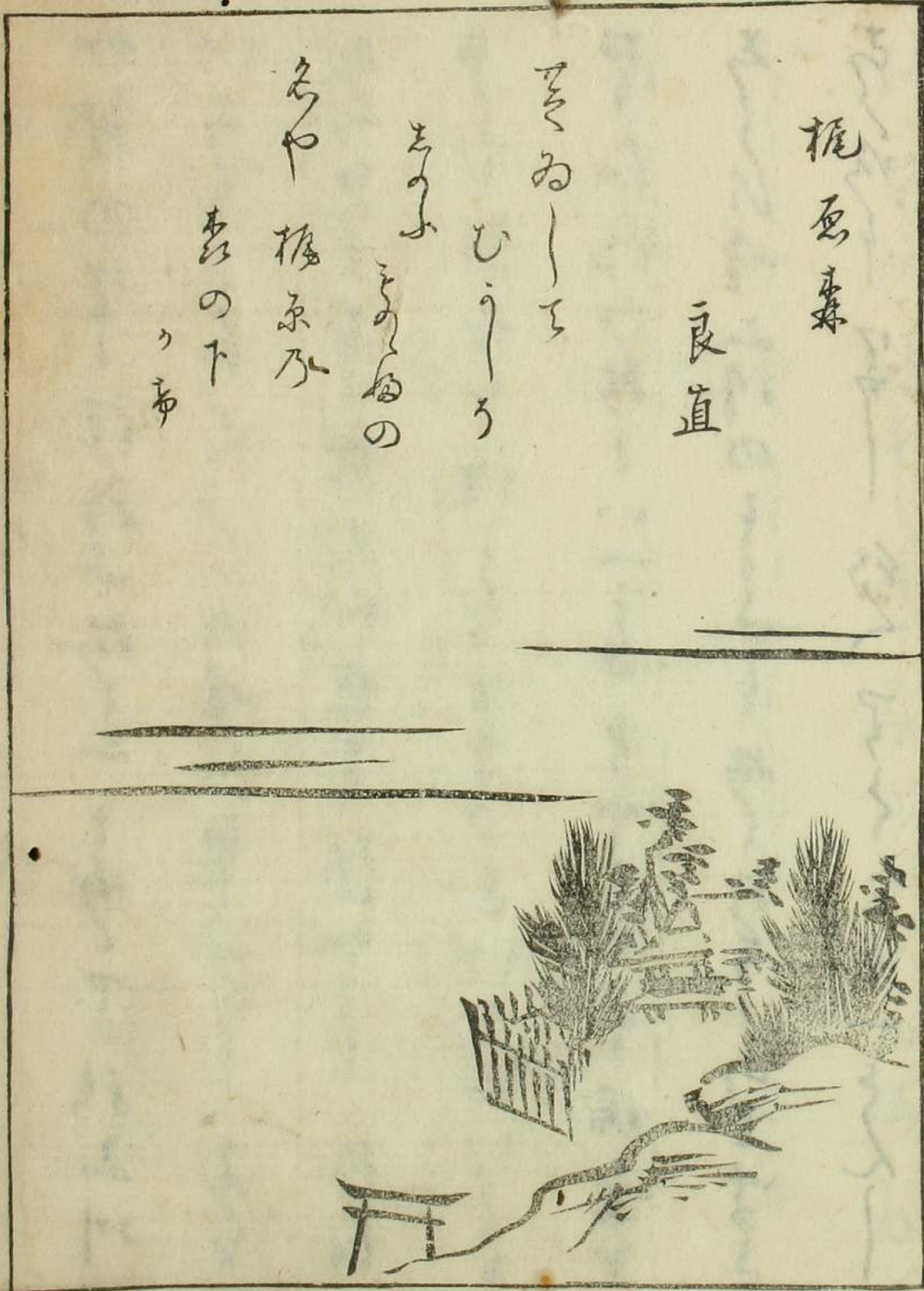
ついで

ひらね

その

ゆくの





梶原森

良直

まゝおしと

ひうらう

まのふ

まのふの

名や 梶原ふ

表の下

うす



三岩山

希種

むとえていさお

りむとふりい主

いと山の場

うら

全

洞明

おそれ

そはとまて

炭竈の

うら

うら

あつあつの

峰

か計の甲子 佐治子行家よりの家結山川
いせしとわんしの鳴いあしりや 名を
あつ免と云 詠大和詠を題し 結ん
ずも 和を讀うと云をいあしりや
おしん けつとにいし 母と云とわんし 風を
あつ免と云 山川のまゝと云と結んし 名を
あつ免と云 けつとにいし 母と云とわんし 風を

けつとにいし 母と云とわんし 風を
あつ免と云 詠大和詠を題し 結ん
ずも 和を讀うと云をいあしりや
おしん けつとにいし 母と云とわんし 風を
あつ免と云 山川のまゝと云と結んし 名を
あつ免と云 けつとにいし 母と云とわんし 風を

拙稿

貞佐

くねみの里

うきうき

しづれき

おのろけ

うきうき

のこせ乃

風系



十五夜の湖

十五夜の

浮城

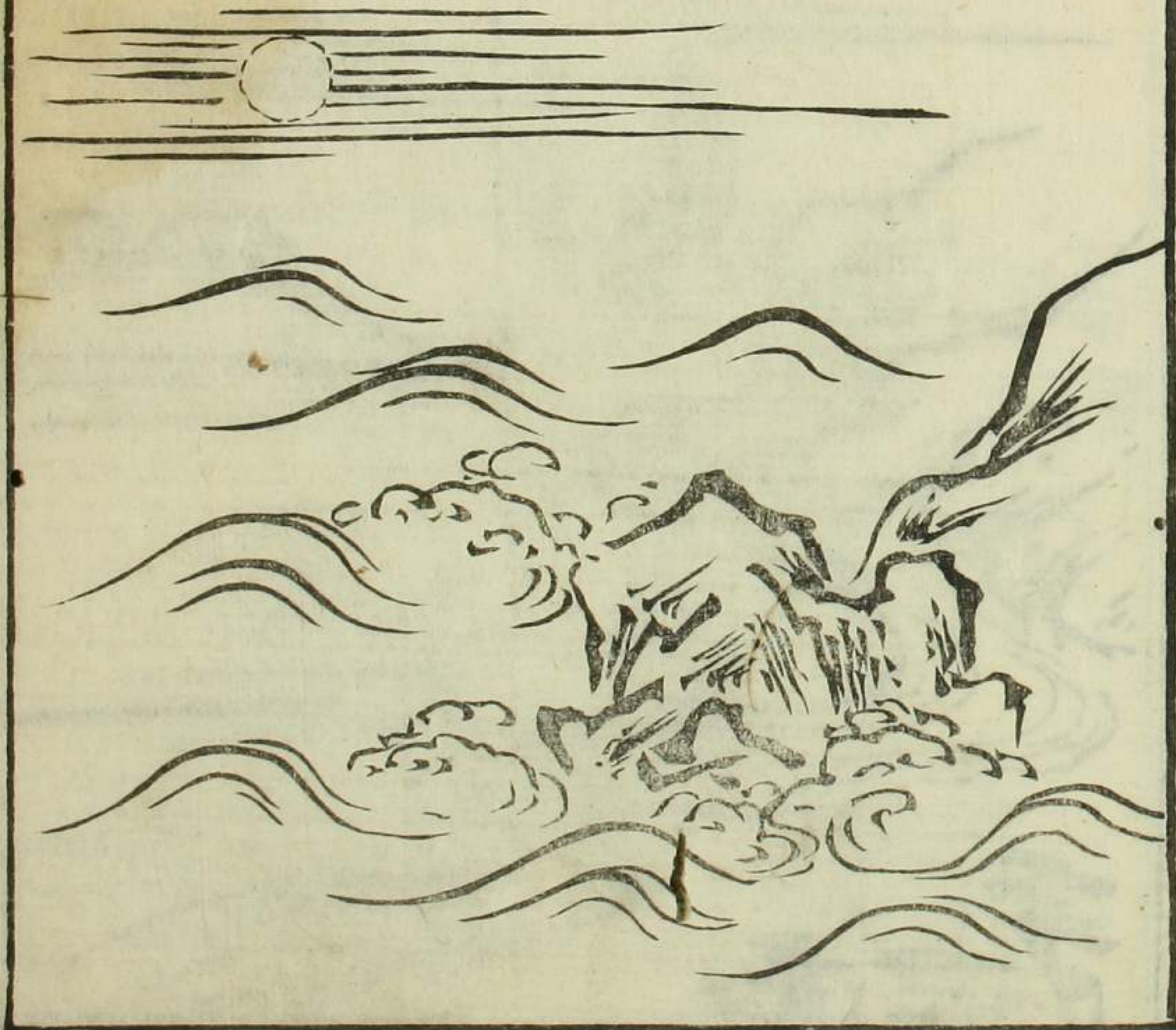
うらや

月老極

うらや

あはれ

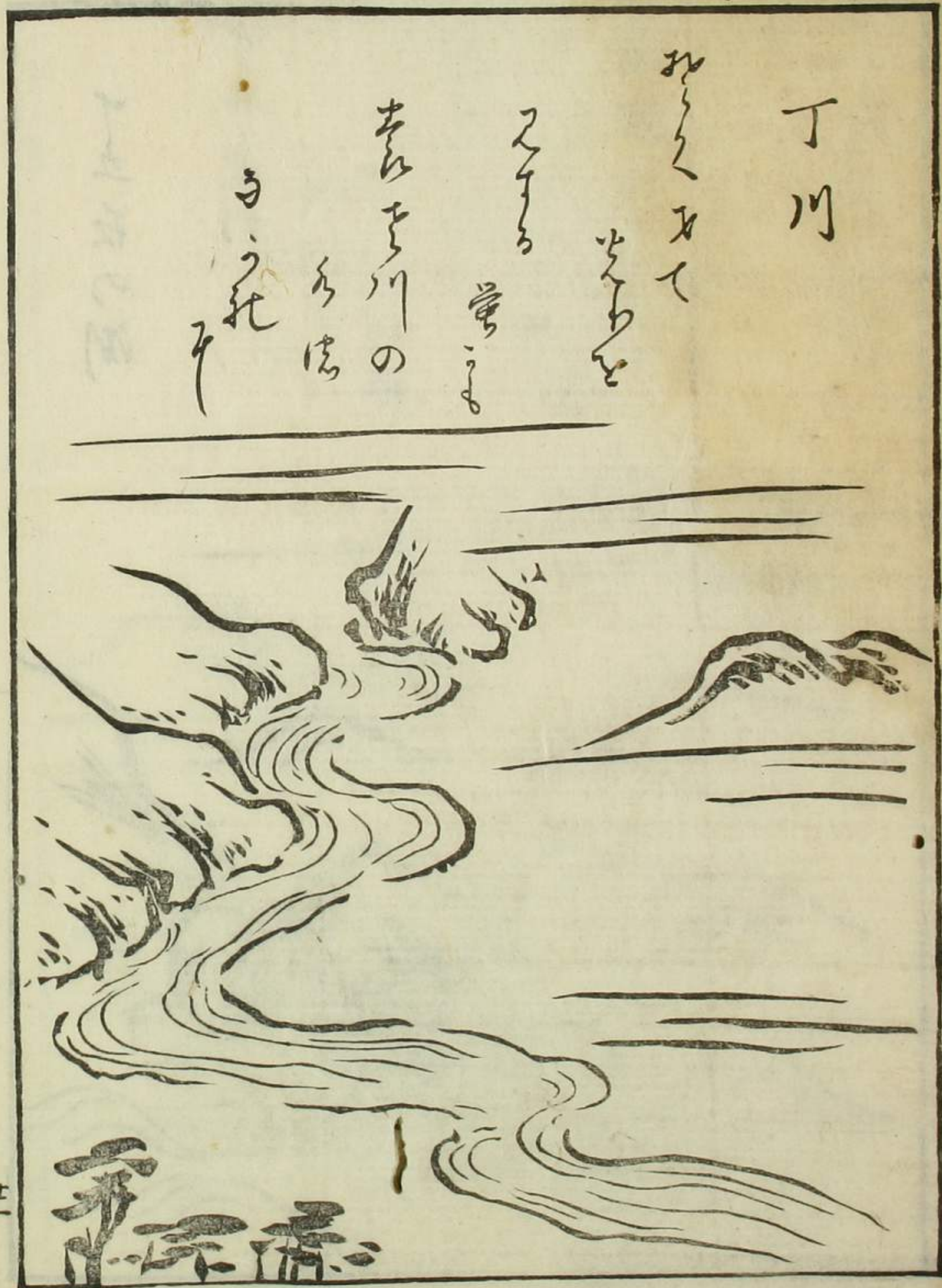
の系





長尾の森

山
の
長尾
の
森
の
橋
の
水
の
流
の
音



丁川

おしくりて

おしくりて

おしくりて

おしくりて

おしくりて

おしくりて

おしくりて

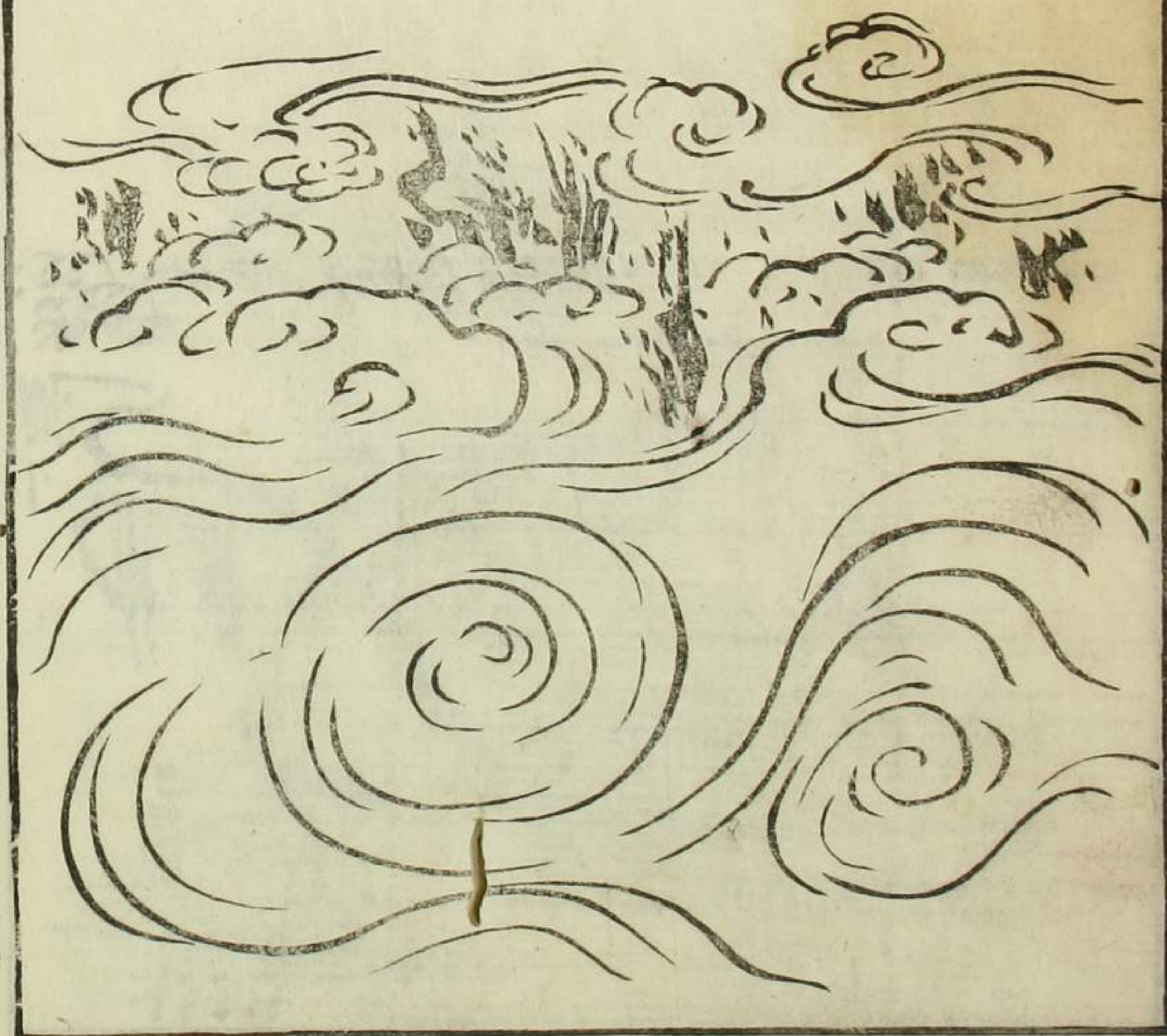
おしくりて

世

おしくりて

急の淵

あきき
あきき
あきき
あきき
あきき
あきき
あきき
あきき
あきき
あきき



三谷の瀧

見ゆらん
三谷の
あきき
あきき
あきき





とすめ山の鐘

鐘を

すめ

とすめ

けしや山の

坊

とすめ

林乃

あられ

と



狼山

おろろ

狼山の

あのを

おれ

と

夕市野

ひーの

いーの

乃色 三つ

あは くら

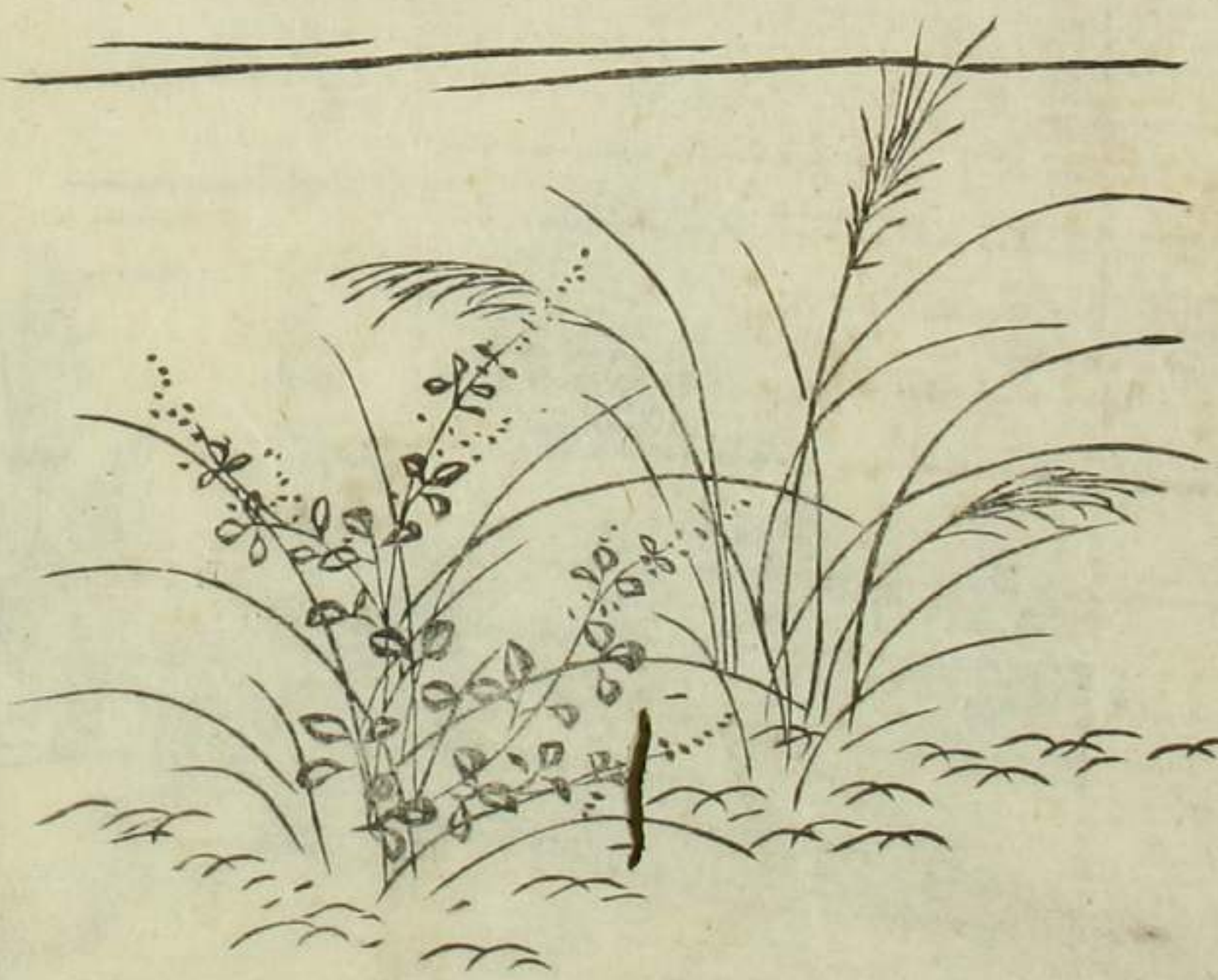
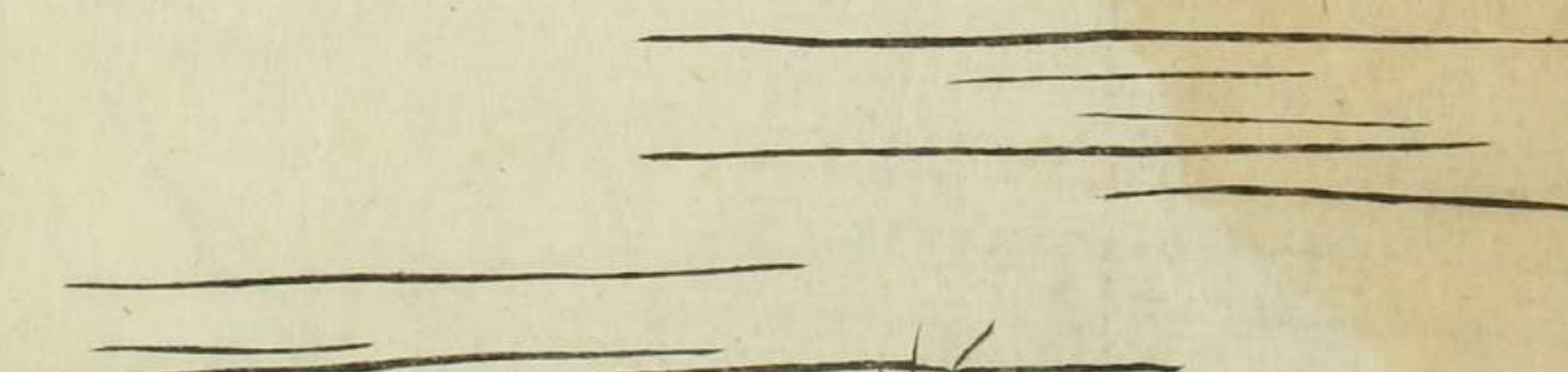
を

まふ

あ

あ

あ



廿

黒山

残音

すま

あ

あ

あ

あ

あ





遅舟様

芦錐

此流主人

世に為る

いづれ

全

以文

花明和

山崎くられ

舟うらひ



瀧舟

風律

流も今如

系川

梅の花

全

郷洞

きこえ

白鳥

流る

ひめのむ

梅城

春衣

雲消て

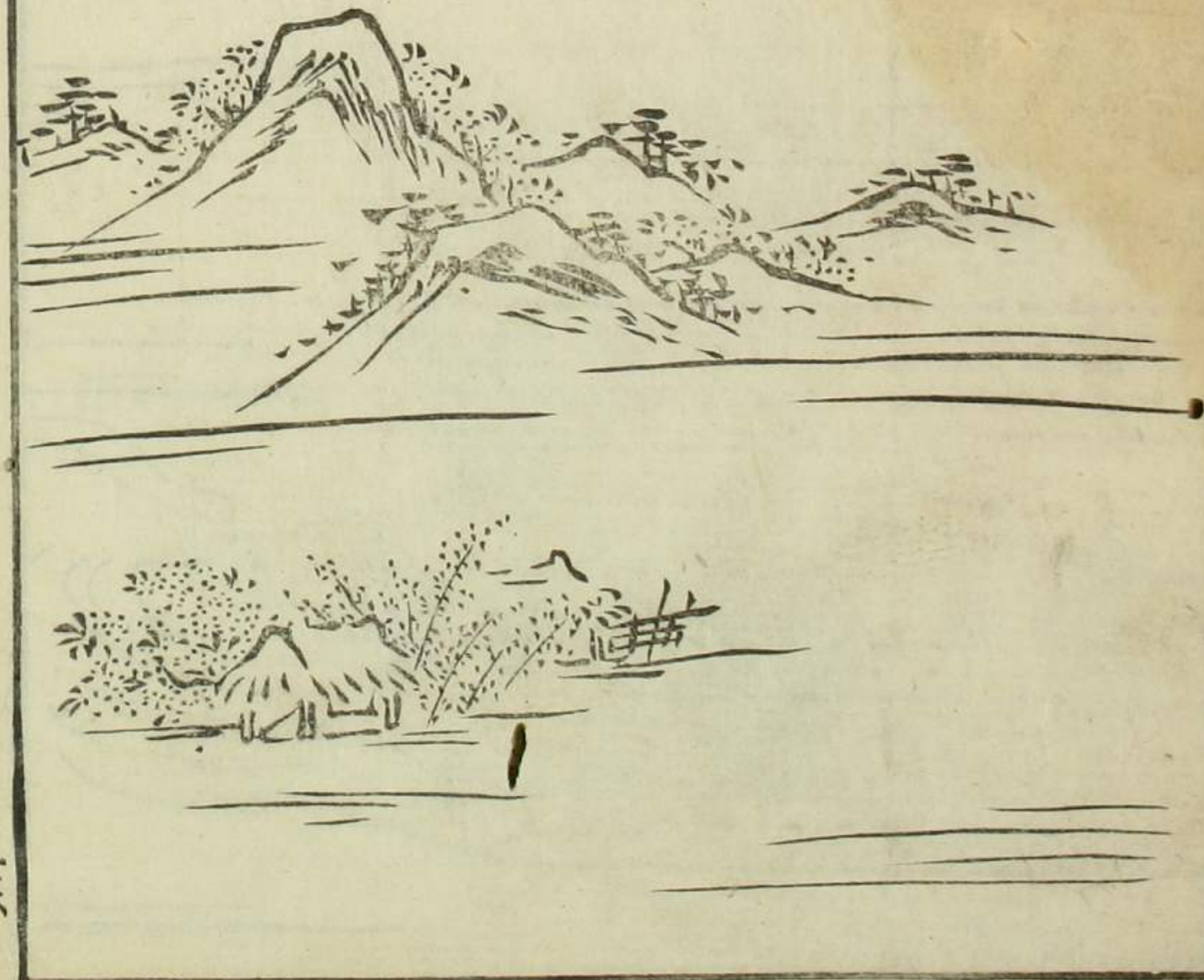
山々

あゝ

あ

城の

山々



呼岩

梅北

物と白は

あゝ

あゝ

あゝ





小坂口

水容

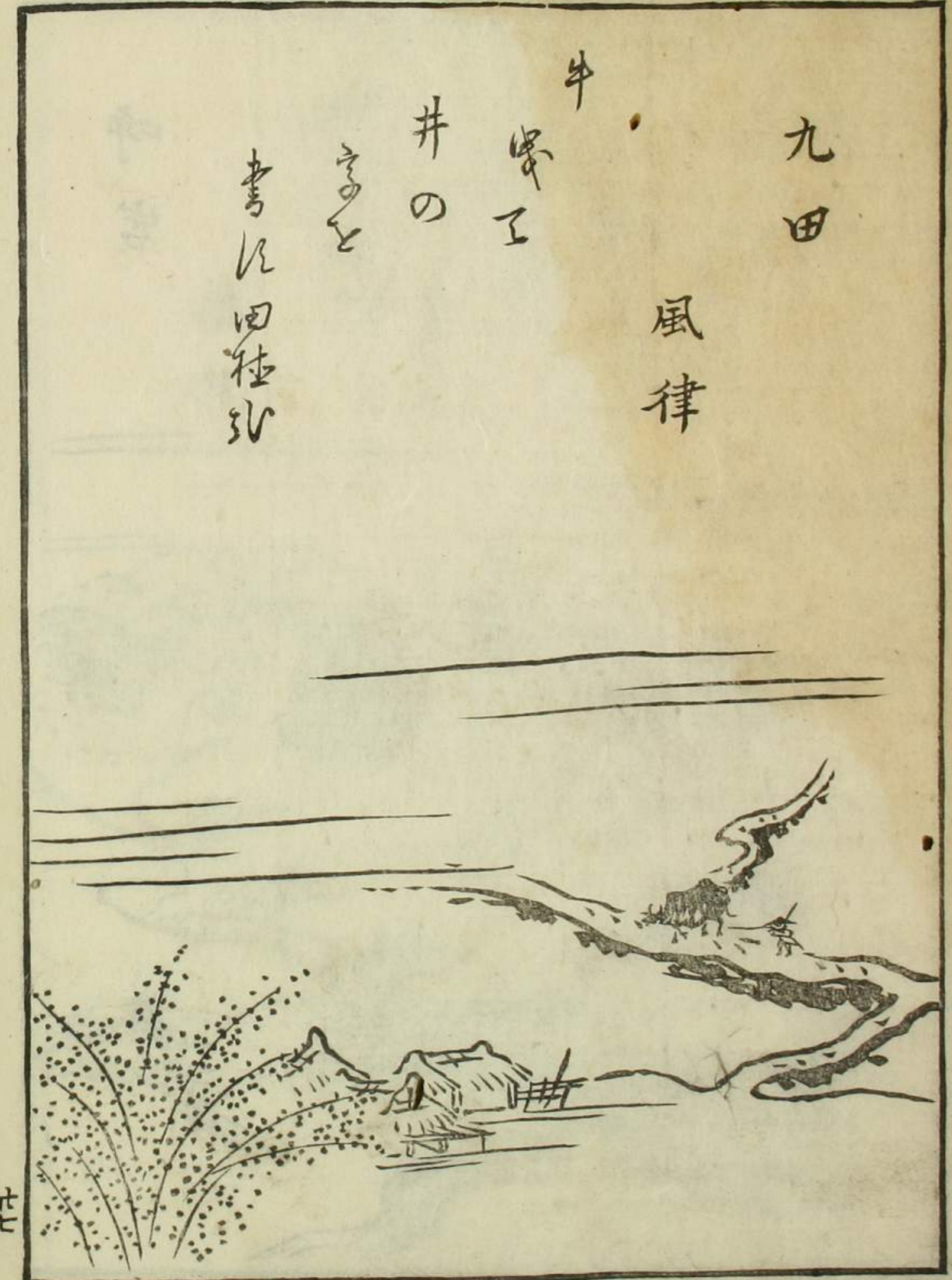
城の守り

とらり

廻り

り

守



九田

風律

牛

岸上

井の

ま

考は田植

月子石

松舟

月影也

ニツト

石乃

物
こころ子



多富里

風律

庵建て西行

多し稲のむ

全
文珉

静うたや

くまのまき

百活も

玉

玉





猿
島

亭々

岩
洞

岩
洞

猿
島

磔
也

玉
あ
ま



火
打
瀧

五
鹿

あ
ま
り

星
と

打
也

寸

瀧
の
音

黒石

顕道

尾石

石

石

石



貝可塚

角城

源氏結や

貝可塚の

州乃也

全

哲梅

尾石

石

石



草尾

杉葉

尾如

化心

つと
心



踏

あさ路玉山旅那ハ山々々谷溪
 樹木無名花——こまらり——夏草青
 石あわ涯還のりま——こまらり——出還の
 地あわ六のゆつ——山川乃炎ま——人
 まれあま同路うけ村杉葉朝のま
 そのあわらちるこま佳境回名のゆら

その所の先生も守られと又いふ言
絶縁家おとらうて——またと云つた
えら人よあつたれ侍ふふ人——その名
と——あつたにきぬあつたふも
ふ、移乃を海に——あつた所の時
をきかたてをきかたてとていふて
理言と書てたふと云

